○ 令和5年12月8日 ~○ 例規甲(免講)第67号 ~

取消処分者講習実施要領

第1 趣旨

この要領は、取消処分者講習(道路交通法(以下「法」という。)第108条の2第 1項第2号に規定する山梨県公安委員会(以下「公安委員会」という。)の行う講習を いう。以下「講習」という。)の実施について山梨県道路交通法施行細則(昭和35年 山梨県公安委員会規則第7号。以下「細則」という。)に定めるもののほか、必要な事 項を定めるものとする。

第2 講習の実施機関

講習は、公安委員会又は公安委員会の指定する指定講習機関(法第108条の4第1項第1号に規定する指定講習機関をいう。以下同じ。)が実施する。

第3 講習の実施場所

講習の実施場所は、公安委員会が実施する講習は交通部運転免許課(以下「運転免許課」という。)とし、指定講習機関が実施する講習は当該指定講習機関とする。

第4 講習指導員及び運転適性指導員

1 講習指導員

公安委員会が実施する講習においては、次の要件に該当する警察職員を講習指導員 として講習の業務に従事させるものとする。

- ア 性格等に関する運転適性検査の積極的な活用について(平成31年3月27日付け、警察庁丙運発第11号・丙交企発第50号)に定める運転適性検査・指導 者資格者証の交付を受けていること。
- イ 講習に使用する自動車等を運転することができる免許を現に有していること。
- ウ 飲酒取消処分者講習以外の講習を実施する場合において、取消処分者講習の講習科目及び時間割等に関する細目(別表第1のその1及びその2)に定めるディスカッション指導の講習科目を行う指導員については、交通心理学の専門家等による教養を受けていること。

2 運転適性指導員

- (1) 指定講習機関が実施する講習においては、運転適性指導員(細則第15条の7に規定する運転適性指導員をいう。以下同じ。)を講習の業務に従事させるものとし、これ以外の者を従事させないこと。
- (2) 指定講習機関は、新たに運転適性指導員を選任したときは、運転適性指導員選任届出書(第1号様式)により、運転免許課を経由して公安委員会に届け出なければならない。
- (3) 指定講習機関は、運転適性指導員を解任したときは、運転適性指導員解任届出書(第2号様式)により、速やかに運転免許課を経由して公安委員会に届け出なければならない。
- (4) 指定講習機関は、飲酒取消講習以外の講習を実施する場合においては、取消処分者講習の講習科目及び時間割等に関する細目(別表第1のその1及びその2)に定めるディスカッション指導の講習科目を行う指導員に、交通心理学の専門家等による教養を受けさせること。また、飲酒取消講習を実施する場合においては、取消処分者講習の講習科目及び時間割等に関する細目(別表第1のその3及びその4)に定める、アルコールスクリーニングテスト、ブリーフ・インターベンション①、ブリーフ・インターベンション②及びディスカッション指導の各講習科目を行う指導員に、アルコール依存症の専門医により、それぞれの教養を受けさせること。

3 講習指導員等の服装

講習指導員及び運転適性指導員(以下「講習指導員等」という。)の服装は、講習の雰囲気を和らげ、かつ、講習が効果的に実施できるもので講習指導員等としてふさわしいものとする。

第5 講習施設及び講習用教材

1 講習施設

所要の受講者を収容できる必要な教材を備えた教室等を整備し、講習の実施に必要な施設確保すること。

なお、講習を行う施設、教室等は、講習を最も効果的に行うことができるように専用のものを整備するよう努めること。

2 講習用教材

道路交通法施行規則(昭和35年総理府令第60号)第38条第2項第3号に規定 する教材は次のとおりとする。

ア 教本及び視聴覚教材

- (ア) 講習で使用する教本は、次の内容について正確にまとめられたものとする。
 - a 最近における道路交通法令の改正の概要
 - b 運転者の社会的責任
 - c 危険予測
 - d 安全運転の基礎知識(運転の特性)
 - e 安全運転の方法
 - f 事故時の対応と応急救護処置
 - g 運転免許に関する各種制度
 - h 被害者等の手記
 - I 安全運転5則
- (イ) 講習で使用する視聴覚教材は、本県の交通実態に関する資料、危険予測、 事故事例等を内容としたものとするとともにディスカッション指導において用いる資料(以下「ディスカッション資料」という。)及び筆記による検査において用いる運転適性検査用紙を必要数整備するものとする。飲酒取消処分者講習においては、アルコールチェッカー(アルコール検知器)、アルコールスクリーニングテスト用紙、ブリーフ・インターベンション用ワークブック及びディスカッション資料を必要数整備するものとする。

イ 自動車等

普通自動車にあっては、マニュアル式又はオートマチック式のものに講習指導員等が危険を防止するために応急の措置を講ずることができる装置(補助ブレーキ等)を備えたもの、大型自動二輪車及び普通自動二輪車にあっては、マニュアル式又はオートマチック式のもの、原動機付自転車(以下「原付」という。)にあっては、原則としてスクータータイプのものとする。

なお、身体障害者用車両については、車両保険契約が締結されている車両に限り持込みを認めるものとするが、講習手数料が軽減されないことをあらかじめ受講者に教示するとともに、講習の前に車両点検を行うこと。

ウ 運転シミュレーター

運転シミュレーターの操作をさせることにより行う検査に基づく指導ができる

ものとする。

工 運転適性検査器材

運転適性検査器材は、動体視力検査器、夜間視力検査器並びに運転において必要な視覚を通じた刺激に対する反応の速度及び正確性を検査する器材とする。

第6 講習の対象者

講習の対象者は、法第96条の3に規定する取消処分者等及び準取消処分者等とする。ただし、当該講習対象者のうち、次のいずれかに該当する者については、飲酒取消処分者講習の対象とする。

- (1) 運転免許の取消処分に係る累積点数の中に、酒気帯び運転、酒酔い運転又は自動車の運転により人を死傷させる行為等の処罰に関する法律(平成25年法律第86号)第2条から第4条までの罪でアルコールの影響によるものの法令違反が含まれている者
- (2) 無免許で飲酒運転の法令違反がある者

第7 講習の予約等

- 1 講習の予約受付
 - (1) 講習の予約は、受講者の申出により公安委員会が受け付ける。
 - (2) 講習の予約受付は、原則として受講者の免許を受けることができない期間又は 運転を禁止する期間の終了日1か月前(飲酒取消処分者講習対象者については2か 月前)から行う。
 - (3) 講習の予約受付に当たっては、別に定める運転免許取消処分通知書、住民票(本籍が記載されたもの)、写真等で本人であることを確認した後、運転免許照会等により法第96条第1項に規定する受験資格を調査した上で行う。
- 2 実施場所及び実施日の指定

講習の実施場所及び実施日の指定は、第6の講習の対象者の区分に従って学級編成を行い、取消処分者講習受講申出者名簿(第3号様式)に登載した上で、細則第15条第1項に規定する取消処分者講習実施通知書を受講者に交付して行う。

3 指定講習機関に対する受講者の通知

公安委員会は、指定講習機関に実施させる講習の対象者については、講習実施日の 7日前までに、取消処分者講習受講予定者通知書(第4号様式)に違反歴等通知票(第 5号様式)を添えて通知する。

第8 講習期間及び学級編成

1 講習期間

講習期間は、13時間を原則として連続2日間で行う。ただし、飲酒取消処分者講習については、原則として第1日目を起算日として30日を経過した日以降に第2日目を実施することとする。

2 学級編成

講習は、四輪車学級及び二輪車学級の別によりこれを行い、1学級の人員は、1グループ3人を単位として計9人の編成を基準とし、1グループについて、講習指導員等1人が担当するとともに、9人編成につき補助者1人を充てることを原則とする。

第9 講習の実施及び留意事項

講習は、細則第15条第3項に規定する取消処分者講習に関する細目及び取消処分者 講習の講習科目及び時間割等に関する細目(別表第1)に基づき実施する。

ただし、降雪、悪天候等の事情により講習科目の実施が困難な場合は、当該内容を変更することができる。

第10 取消処分者講習終了証明書の交付

- 1 公安委員会又は指定講習機関は、講習を終了した者に細則第15条第5項に規定する取消処分者講習終了証明書(以下「終了証明書」という。)を交付するとともに、 取消処分者講習終了証明書交付簿(第6号様式)を作成し、終了証明書の副本を保管 するものとする。
- 2 終了証明書番号は、暦年一連番号(4桁)とし、和暦の下一桁を冠して、公安委員会交付の終了証明書は001から300まで、指定講習機関は301から999まで とする。

第11 講習実施結果報告及び講習済登録

- 1 公安委員会が、講習を終了したときは、取消処分者講習実施簿(第7号様式)を作成すること。また、指定講習機関が講習を終了したときは、速やかに細則第15条の11に規定する取消処分者講習結果報告書、取消処分者講習終了証明書交付簿の写し並びに当該受講者に係る終了証明書の写し、受講の感想文(第8号様式)、使用済み運転適性検査用紙及び違反歴等通知票を添え、運転免許課を経由して公安委員会へ報告するものとする。
- 2 公安委員会は、講習を実施し、又は指定講習機関から講習実施結果の報告を受けた

ときは、速やかに警察共通基盤システムに取消処分者講習済登録を行うこと。

第12 終了証明書の再交付

終了証明書を交付された者が、終了証明書を亡失し、滅失し、又は毀損したときは、 交付した公安委員会又は指定講習機関に対して細則第15条第6項に規定する取消処分 者講習終了証明書再交付申請書により申請するものとし、申請を受理した公安委員会又 は指定講習機関は、保管している副本の写しを交付するものとする。この場合におい て、再交付手数料は徴収しないものとする。

なお、指定講習機関が再交付した場合には、その旨を運転免許課を経由して公安委員会に報告すること。また、受講後に住所地を他の都道府県に移動した者からの終了証明書の再交付申請は、移動先を管轄する他の都道府県公安委員会を経由して公安委員会又は指定講習機関宛てに申請させるものとする。

第13 指定講習機関に対する指導上の留意事項

1 指定講習機関に対する指導監督

公安委員会は、指定講習機関に対し指定講習機関に関する規則(平成2年国家公安委員会規則第1号)の趣旨に基づき、講習が適正かつ確実に行われるよう指導するものとする。

2 初心運転者講習との区分の明確化

指定講習機関は、法第108条の6に規定する講習業務規程の申請等及び指定講習機関に関する規則第11条に規定する講習結果報告書の提出等の各手続を行うときは、初心運転者講習に係る手続とは明確に区分して行うこと。

3 講習業務規程の変更等

指定講習機関は、公安委員会から認可を受けた講習業務規程に変更を生じた場合及 び講習の休廃止をする場合は、速やかに公安委員会に申請すること。

4 保秘の徹底

指定講習機関は、指定講習機関としての事務とその他の事務との分掌を明確に区分して適正な業務管理に努めるとともに、受講者に関する情報はもとより、講習に係る 各種情報に対する保秘を徹底すること。

第14 その他

1 各種事故防止及び事故報告

公安委員会及び指定講習機関は、講習中の各種事故防止に万全を期すため、講習指

導員等に特段の配意をさせるとともに、特に二輪車による技能診断に際しては、受講者にヘルメット、プロテクタ、手袋等を確実に着用させること。また、二輪車による講習において、聴覚障害者及び聴力に不安があるため講習を受けるに当たり安全を確保するための特別な対応を受けることを希望する受講者を含めて集団講習を行う場合には、何らかの不測の事態が発生した際にこれに対処できるように、無線による意思伝達装置を使用するなどの措置を講ずることにより、受講者の安全を確保すること。

なお、指定講習機関は、講習に関し発生した各種事故については、速やかに運転免 許課を経由して公安委員会に報告すること。

2 講習効果の測定

公安委員会は、講習の効果を測定するため、必要により受講者の受講後の交通違反 及び交通事故の発生状況を追跡調査して資料化に努めるとともに、当該資料を講習の 実施に資するものとする。

別表第 1 取消処分者講習の講習科目及び時間割等に関する細目 その 1 四輪車

日	講習科目	講習細目	留意事項	時	形	講	資機材の装	備考
				間	式	習	備	
						指		
						導		
						員		
						等		
第	運転適性	開講	講習の目的とその	6 0	全	1人	運転適性検	受講者9人以
1	検査	運転適性検	日程について簡単に	分	員		查用紙	内
日		查	説明し、直ちに、運					受講者全員
			転適性検査を実施す					に対し補助
			る。運転適性検査で					者1人
			は、自分の力を出し					1グループ3
			切るよう指導する。					人
								補助者は、
								運転適性検
								査を補助す
								る。
	導入	(1) 講習	明るく率直な雰囲	6 0	グ	受		担当者は、
		目的と	気を作り、何を話し	分	ル	講		同じグルー
		方法の	てもよいという気持		<u> </u>	者3		プを引き続
		説明	ちを抱くよう仕向け		プ	人		き担当する。
		(2) 講師	る。		(3	に		補助者1人
		及び受	受講者の日頃の利		人)	つ		補助者は、
		講者の	用車種、車歴等を話		別	き、		運転適性検

	自己紹	させることで、寡黙			担		査を採点し、
	介	の時間が続かないよ			当		診断票を作
		うにする。			者1		成する。
					人		
性格と運	視 聴 覚	自らの弱点を冷静	6 0	全	1人	視聴覚教材	補助者1人
転の概説	教材により	に見つめる必要があ	分	員			
	性格特徴が	ることを気付かせる					
	運転の仕方	ような内容のものと					
	に表れる可	する。					
	能性のある	運転適性検査結果					
	ことを示唆	に結び付け、安全な					
	する。	運転の在り方につい					
		て指導する。					
運転適性	運転適	自らの運転の仕方	6 0	グ	受	運転適性検	補助者は運
診断結果	性診断票を	を反省する必要があ	分	ル	講	查器	転適性検査
による指	受講者に渡	ることを気付かせ、		Ţ	者3	動体視力検	を補助する。
導・助言	し、それを	弱点が車の動きに表		プ	人	查器	
	見ながら運	れないようにするた		別	に	夜間視力検	
	転時の危険	めにはどうしたらよ		•	つ	查器	
	と直結しや	いかを考えさせる。		個	き、		
	すい弱点を	そして、できるだ		別	担		
	指摘し、事	け処分事由となった		的	当		
	故を起こし	事故、違反と運転適		指	者1		
	やすい要素	性検査結果とを結び		導	人		
	が自らの中	付けて考えるように					
	にあること	示唆する。					
	を、それと	最後に、安全運転					
	なく気付か	実行のためのこつを					
	せるように	助言する。					
	仕向ける。						

運転技能	(1) 診断	運転時の危険な癖	120	グ	受	普通乗用自	
の診断	のねら	を指摘し、それが今	分	ル	講	動車運転シ	
	いと心	後の運転に表れない		<u> </u>	者3	ミュレータ	
	構え	ようにするための方		プ	人	<u> </u>	
	(2) 運転	法を具体的に考えさ		(3	に		
	シミュ	せる。		人)	つ		
	レータ	その技術を助言す		別	き、		
	一操作	る。			担		
	による				当		
	技能診				者1		
	断				人		
	(3) = -						
	スでの						
	技能診						
	断						
	(4) チェ						
	ックリ						
	ストに						
	よる長						
	所•短						
	所の説						
	明						
	(5) 運転						
	適性診						
	断結果						
	と照合						
	した運転特徴						
	転 行 倒の説明						
ディスカ		自らの運転中にス	6.0	⇒ .	亚	ニックル	## # 1

	ッション	転等をテー	トレスを感じた経験	分	議	講	ション資料	
	指導	マとしたデ	や交通違反・事故を		形	者6		
		イスカッシ	起こした経験を発表		式	人		
		ョンを行	させ、自身が危険な			に		
		い、運転中	運転(行動)に至っ			つ		
		の感情や状	た原因となる認知の			き、		
		況に対する	偏りを気付かせる。			担		
		認識が運転	安全な運転を行うた			当		
		行動と関連	めの対処法について			者1		
		があること	議論させ、運転中の			人		
		を理解させ	認知の偏りや運転行					
		る。	動を見直して、対処					
			法を継続して実行し、					
			習慣化するよう指導					
			する。					
第	危険予測	運転席	運転席からの死角	6 0	全	1人	視聴覚教材	補助者1人
2	運転の解	から見えな	に対する気配りの必	分	員			
日	説	い部分に対	要性を強調して、突					
		する警戒心	発的な事態の変化を					
		を高めるた	想定しながら、慎重					
		めの方策を	に運転する必要性を					
		考えさせ	理解させる。					
		る。						
	コースで	技能診	車の動きが第1日	150	グ	受	普通乗用自	場内走行終
	の技能診	断と同じ3	目と変わらず乱暴で	分	ル	講	動車	了後、場内
	断	人のメンバ	あれば、状況に応じ		<u> </u>	者3		走行訓練の
		ーで同じ講	た早めの減速が実行		プ	人		記録表(本
		習路を走	されていないことを		別	に		人記録用)
		る。走行前	指摘する。			つ		(第9号様
		の助言は、	場合によっては、			き、		式)、(同乗

次のとお	同じ講習路をもう一	担	I	者記録用)
n.	度走らせる。	当		(第10号様
(1) でき	受講者の運転につ	者1		式) 及び (指
るだけ	いて、1人ずつ第1日	人		導員記録用)
広い範	目の運転と比較して			(第11号様
囲を見	どこが改善されてい			式)を作成
ること。	るかを講評する。			する。
(2) 駐停	なお、この際運転			
車車両	技能診断票 (四輪車)			
の陰、	(第12号様式)に他			
小交差	のメンバーの運転に			
道路な	対する感想を記載さ			
どから	せるようにすれば、			
の飛び	この訓練の効用の度			
出しに	合いを把握できるこ			
警戒を	とになる。			
強める				
こと。				
(3) 歩行				
者、自				
転車等				
に不安				
を感じ				
たとき				
は減速				
するこ				
とを考				
えて運				
転する				
こと。				

安全運転	(1)	運転	運転適性診断票及	9 0	グ	受
実行のた	適	性診	び運転技能診断票(四	分	ル	講
めの指導	断	票 及	輪車)を見せながら		_	者3
・助言	び	運転	指導する。		プ	人
	技	能 診	自らの長所・短所		別	に
	断	票(匹	を冷静に見つめ、短		•	つ
	輪	車)	所が車の動きとして		個	き、
	カュ	ら何	表れないように、刻		別	担
	が	危険	で々と変化する運転時		的	当
	カゝ	を示	の自らの心の動きを		指	者1
	唆	する。	抑制する必要がある。		導	人
	(2)	コー	事故を起こしたく			
	ス	での	ない気持ちを、この			
	訓	練結	ように、車の動きと			
	果	から	して表現する必要が			
	改	善さ	あることを強調し、			
	れ	たも	指導する。			
	0	と、				
		だ今				
		気を				
		ける				
		き事				
		を指	3			
		する。				
		危険				
		測運				
		の大				
		さを				
		めて				
	気	付か	7			

	せる。					
 講習から	何が得	質疑応答により、	6 0	グ	1人	
得られる	られたかを	担当者が受講者の発	分	ル		
ものは何	中心議題と	言を促しながら進め		<u> </u>		
カュ	して、受講	る。進め方の形式に		プ		
	者の心に残	こだわりなく、次の		別		
	るもの、受	ような結論に導く。				
	講に対する	(1) 運転の改善は、				
	印象の大略	一気にできるもの				
	を把握す	ではない。毎日を				
	る。運転時	訓練のつもりで運				
	の意識の在	転する。				
	り方の大切	(2) 受講内容を時々				
	さが理解さ	思い浮かべながら				
	れていれば	運転する。				
	よい。	(3) 状況の変化に				
		は、一呼吸早めの				
		減速で応じる。				
		(4) 先急ぎの気持				
		ち、わがままさ、				
		横着さを刻々と抑				
		えなければ、ブレ				
		ーキの活用ができ				
		ない。				
		受講者の心に残っ				
		たもの、受講後の改				
		善意欲を感想文にま				
		とめさせる。				
		嫌々ながら受講し				
		ているうちに、何か				

	に気付き、受講して			
	良かったという気持			
	ちを抱いている可能			
	性がある。このよう			
	な気持ちを大事にし			
	ながら講習を終了さ			
	せる。			

その2 二輪車

П			历立寺古	п+	π⁄.	≑ #	次操业の出	/ # #
日	講習科目	講習細目	留意事項	時	形	講	資機材の装	備考
				間	式	習	備	
						指		
						導		
						員		
						等		
第	運転適性	開講	講習の目的とその	6 0	全	1人	運転適性検	受講者9人以
1	検査	運転適性検	日程について簡単に	分	員		查用紙	内
日		查	説明し、直ちに、運					受講者全員
			転適性検査を実施す					に対し補助
			る。運転適性検査で					者1人
			は、自分の力を出し					1グループ3
			切るよう指導する。					人
								補助者は、
								運転適性検
								査を補助す
								る。
	導入	(1) 講習	明るく率直な雰囲	6 0	グ	受		担当者は、
		目的と	気を作り、何を話し	分	ル	講		同じグルー
		方法の	てもよいという気持		_	者3		プを引き続
		説明	ちを抱くよう仕向け		プ	人		き担当する
		(2) 講師	る。		(3	に		補助者1人

	及	び	受	5	を講者の	の日頃の)利		人)	つ		補助者は、
	講	者	の	用耳	直種、 耳	車歴等を	話		別	き、		運転適性検
	自	己	紹	さも	せるこ。	とで、寡	ミ黙			担		査を採点し、
	介			Ø₽	寺間が約	売かない	ょ			当		診断票を作
				うに	こする。					者1		成する。
										人		
運転技能	(1)	診	断	1	日常人	点検・取	しり	6 0	グ	受	普通自動二	車両は、受
の診断(1	0	ね	ら	E	可し			分	ル	講	輪車原動機	講者1人に1
—1)	٧٧	کے	心	2	慣熟走				J	者3	付自転車	台
	構	え		3	目標制	削動			プ	人		補助者1人
	(2)	コ	. —	4	コーナ	トリング			(3	に		課題は、①
	ス	で	\mathcal{O}	(5)	スラロ	ューム			人)	つ		及び②のほ
	技	能	診	6	8の字	旋回			別	き、		カン3~8の
	断			7	緊急制	削動				担		うち数課題
	(3)	チ	エ	8	緊急回	可避				当		を指定して
	ツ	ク	リ	-	コースし	こおいて				者1		実施する。
	ス	7	0	輪耳	直技能 記	診断課題	設			人		担当者の診
	作	戓		定の	基準	(別表第4	4)					断方法は、
				に基	基づき記	設定した	課					定置式とす
				題を	を行わる	せること	にに					る。
				より)、二輔	輪車の危	〕険					慣熟走行は
				性に	は運転征	う動と密	接					補助者の先
				な関	関係がる	あること	を					導で集団走
				理角	解させる	ó.						行させ、最
				Ž	との者の	の特性を	把					初の2周は極
				握し	_、運転	妘技能診	》断					低速で走行
				票	(二輪車	亘)(第13	3号					し状況を見
				様コ	じ)を作	作成する。						ながら順次
												速度を上げ
												る。

性格と運	視聴覚	自らの弱点を冷静	6 0	全	1人	視聴覚教材	「運転適性
転の概説	教材により	に見つめる必要のあ	分	員			検査による
	性格特徴が	ることを気付かせる					安全運転の
	運転の仕方	ような内容のものと					ポイント」
	に表れる可	する。					等を活用す
	能性のある	把握した技能診断					る。
	ことを示唆	結果及び運転適性検					
	する。	査結果を結び付け、					
		安全な運転の在り方					
		について指導する。					
運転技能	(1) =-	前回の技能診断と	6 0	グ	受	普通自動二	担当者の診
の診断(1	スでの	同じ課題により再び	分	ル	講	輪車原動機	断方法は定
 2)	技能診	行わせ、改善されて		<u> </u>	者3	付自転車	置式とする。
	断	いない点や運転時の		プ	人		
	(2) チェ	危険な癖を指摘して、		別	に		
	ックリ	それが今後の運転に			つ		
	ストに	表れないようにする			き、		
	よる長	ための方法を具体的			担		
	所 · 短	に考えさせる。			当		
	所の説	その技術を助言す			者1		
	明	る。			人		
	(3) 運転						
	適性診						
	断 結 果						
	と照合						
	した運						
	転特徴						
	の説明						
運転適性	運転適	運転適性検査器材	6 0	全	受	運転適性検	補助者は、
• 技能診	性診断結果	を用いた検査に基づ	分	員	講	查器	運転適性検

大	断結果に	及び技能診	く指導を行う。		で	者3	動体視力検	査を補助す
時の危険と きが運転者や速度に 直結しやす よってどう違うか、	よる指導	断結果に基	技能診断の体験を		検	人	查器	る。
直結しやす よってどう違うか、	• 助言	づき、運転	もとに、二輪車の動		査	に	夜間視力検	
い弱点を指 摘し、事故 を起こしや、気付かせる。互いの すい要素が 運転の違いを比較さ 自らの中に もあること をそれとな 適性検査結果を結び く気付かせ 付けて考えるよう示 るように仕 唆し、どうすること 向ける。		時の危険と	きが運転者や速度に		し	つ	查器	
摘し、事故 との相違点を話させ、 グ 当 者1 すい要素が 運転の違いを比較さ 一 人 自らの中に た事故、違反と運転 別 もあること た事故、違反と運転 り そそれとな 適性検査結果を結び く気付かせ く気付かせ し、どうすること 別 向ける。 第2日目の受講を 時 考え、押しつける指導ではなく、希望を持たせる配慮が必要 方にせる配慮が必要 ディスカ 妨害運 トレスを感じた経験 ッション 本 大 指導 マとしたデ 中や交通違反・事故を イスカッシ 起こした経験を発表 式 ョンを行 させ、自身が危険な に コンを行 に つ た原因となる認知のの感情や状況に対する。 個別を気付かせる。 認識が運転 安全な運転を行うた 当		直結しやす	よってどう違うか、		た	き、		
を起こしや すい要素が 自らの中に もあること をそれとな 適性検査結果を結び く気付かせ付けて考えるよう示 るように仕 唆し、どうすること 向ける。 第2日目の受講を 考え、押しつける指 導ではなく、希望を 持たせる配慮が必要 ディスカ 妨 害 運 自らの運転中にス 60 計 導ではなく、希望を 持たせる配慮が必要 ディスカ が 害 運 自らの運転中にス 60 計 導ではなく、希望を 持たせる配慮が必要 ディスカッション 転等をテートレスを感じた経験 マとしたディスカッシ 起こした経験を発表 ョンを行い、運転中 運転(行動)に至っ の感情や状 い、運転中 での感情や状 別 的 指 形 式 としたデローのの感情や状 に に つっき、 担 となる認知の 汎に対する 認識が運転 安全な運転を行うた		い弱点を指	これまでの思い込み		後、	担		
## まではないではない まではない まではない まではない では、処分事由とない では、処分事由とない では、処分事由とない では、処分事由とない では、処分事由とない では、をそれとな ではなるように では、とうすること では、とうすること ではない、本望を おきにない ではない、希望を おきにない ではない、 ののではない では、 ののでは、 のの		摘し、事故	との相違点を話させ、		グ	当		
自らの中に せ、処分事由となっ た事故、違反と運転 をそれとな 適性検査結果を結び く気付かせ 付けて考えるよう示 るように仕 向ける。 が大事かを考えさせ あ。 第2日目の受講を 考え、押しつける指 導ではなく、希望を 持たせる配慮が必要 ディスカ 妨害 運 自らの運転中にス 6 0 討 受 ディスカッション 転等をテートレスを感じた経験 分 議 講 ション資料 者6 スカッシ 起こした経験を発表 ョンを 行 させ、自身が危険ない、運転中 運転 (行動)に至っ の感情や状 た原因となる認知の 況に対する 偏りを気付かせる。 認識が運転 安全な運転を行うた 当		を起こしや	気付かせる。互いの		ル	者1		
 もあること た事故、違反と運転		すい要素が	運転の違いを比較さ		<u> </u>	人		
をそれとな く気付かせ く気付かせ 付けて考えるよう示 るように仕 向ける。 ・ 個別 別 別 が大事かを考えさせ る。 第2日目の受講を 考え、押しつける指 導ではなく、希望を 持たせる配慮が必要 前 導ではなく、希望を 持たせる配慮が必要 ディスカ ッション 転等をテートレスを感じた経験 マとしたデ や交通違反・事故を ィスカッシ 起こした経験を発表 ョンを行させ、自身が危険ない、運転中に大自身が危険ない、運転中で ではなく、希望を 方となる認知のの感情や状た原因となる認知の況に対する偏りを気付かせる。 認識が運転 ボ 大 大 大 大 大 大 大 上 大 大 上 大 上 <td></td> <td>自らの中に</td> <td>せ、処分事由となっ</td> <td></td> <td>プ</td> <td></td> <td></td> <td></td>		自らの中に	せ、処分事由となっ		プ			
く気付かせ 付けて考えるよう示るように仕 唆し、どうすること 向ける。 個別的 的 指 導		もあること	た事故、違反と運転		別			
るように仕 向ける。 唆し、どうすること が大事かを考えさせ る。 別 的 指 導 導 ではなく、希望を 持たせる配慮が必要 別 的 指 導 ではなく、希望を 持たせる配慮が必要 ジョン 要 が必要 ジョン 新 審 運 中にス 6 0 討 後 講 ション資料 受 ディスカッ 補助者1人 ション資料 がきをテートレスを感じた経験 かで交通違反・事故を イスカッシ 起こした経験を発表 コンを行い、運転中 の感情や状た原因となる認知の の感情や状た原因となる認知の 別に対する 編りを気付かせる。 認識が運転 式 人 に つ き、 担 担 に つ き、 担 認識が運転 安全な運転を行うた 当		をそれとな	適性検査結果を結び					
向ける。 が大事かを考えさせ る。 第2日目の受講を 考え、押しつける指 導ではなく、希望を 持たせる配慮が必要 ディスカ 妨害 運 自らの運転中にス 6 0 討 受 ディスカッ 補助者1人 ション資料 指導 マとしたデ や交通違反・事故を イスカッシ 起こした経験を発表 式 人 ロンを行 させ、自身が危険ない、運転中 運転 (行動) に至っ の感情や状 た原因となる認知の 別に対する 偏りを気付かせる。 認識が運転 安全な運転を行うた 当		く気付かせ	付けて考えるよう示		個			
る。 第2日目の受講を 考え、押しつける指 導ではなく、希望を 持たせる配慮が必要 ディスカ 妨害運 自らの運転中にス 6 0 討 受 ディスカッ 補助者1人 ッション 転等をテートレスを感じた経験 分 議 講 ション資料 指導 マとしたデ や交通違反・事故を ィスカッシ 起こした経験を発表 コンを行させ、自身が危険ない、運転中 運転(行動)に至っ の感情や状た原因となる認知の 況に対する 偏りを気付かせる。 認識が運転 安全な運転を行うた 担		るように仕	唆し、どうすること		別			
第2日目の受講を 考え、押しつける指導ではなく、希望を 持たせる配慮が必要 ディスカ 妨害 運 自らの運転中にス 6 0 討 受 ディスカッ 補助者1人 ッション 転等をテートレスを感じた経験 分 議 講 ション資料 指導 マとしたデ や交通違反・事故を ィスカッシ 起こした経験を発表 ョンを行させ、自身が危険ない、運転中 運転(行動)に至っ の感情や状た原因となる認知の 況に対する 偏りを気付かせる。 認識が運転 安全な運転を行うた		向ける。	が大事かを考えさせ		的			
考え、押しつける指 導ではなく、希望を 持たせる配慮が必要 ディスカ 妨害 運 自らの運転中にス 6 0 討 受 ディスカッ 補助者1人 ッション 転等をテー トレスを感じた経験 分 議 講 でとしたデ や交通違反・事故を ィスカッシ 起こした経験を発表 ョンを行 させ、自身が危険ない、運転中 運転(行動)に至っ の感情や状た原因となる認知の 況に対する 偏りを気付かせる。 認識が運転 安全な運転を行うた			る。		指			
導ではなく、希望を 持たせる配慮が必要 ディスカ 妨害 運 自らの運転中にス 6 0 討 受 ディスカッ 補助者1人 ッション 転等をテートレスを感じた経験 分 議 講 ション資料 指導 マとしたデ や交通違反・事故を ィスカッシ 起こした経験を発表 ョンを行 させ、自身が危険ない、運転中 運転(行動)に至っ の感情や状た原因となる認知の 況に対する 偏りを気付かせる。 認識が運転 安全な運転を行うた 担 当			第2日目の受講を		導			
持たせる配慮が必要持たせる配慮が必要でイスカック対象でイスカック補助者1人ディスカッシ 転等をテートレスを感じた経験分 議 講 マとしたデ や交通違反・事故をイスカッシ 起こした経験を発表 コンを行い、運転中 運転(行動)に至っの感情や状た原因となる認知ののの感情や状た原因となる認知の次に対する偏りを気付かせる。認識が運転安全な運転を行うたさ、担			考え、押しつける指					
ディスカ 妨害 運 自らの運転中にス 6 0 計 受 ディスカッ 補助者1人 ッション 転等をテー トレスを感じた経験 分 議 講 ション資料 指導 マとしたデ や交通違反・事故を イスカッシ 起こした経験を発表 式 人 コンを 行 させ、自身が危険ない、運転中 運転 (行動) に至っ の感情や状 た原因となる認知の た原因となる認知の 況に対する 偏りを気付かせる。 認識が運転 安全な運転を行うた 当			導ではなく、希望を					
ッション 転等をテートレスを感じた経験分 議講 ション資料 指導 マとしたデや交通違反・事故をイスカッシ 起こした経験を発表ョンを行させ、自身が危険ない、運転中運転(行動)に至っの感情や状た原因となる認知ののでは、た原因となる認知の況に対する偏りを気付かせる。認識が運転安全な運転を行うた は			持たせる配慮が必要					
指導 マとしたデ や交通違反・事故を	ディスカ	妨害運	自らの運転中にス	6 0	討	受	ディスカッ	補助者1人
イスカッシ 起こした経験を発表 式 人 ョンを行 させ、自身が危険ない、運転中運転(行動)に至っの感情や状た原因となる認知ののでは、た原因となる認知のでき、況に対する偏りを気付かせる。 き、 況に対する 偏りを気付かせる。認識が運転安全な運転を行うた 担	ッション	転等をテー	トレスを感じた経験	分	議	講	ション資料	
ョンを行 させ、自身が危険な に い、運転中 運転 (行動) に至っ つ の感情や状 た原因となる認知の き、 況に対する 偏りを気付かせる。 担 認識が運転 安全な運転を行うた 当	指導	マとしたデ	や交通違反・事故を		形	者6		
い、運転中運転(行動)に至っつの感情や状た原因となる認知のき、況に対する塩認識が運転安全な運転を行うた当		ィスカッシ	起こした経験を発表		式	人		
の感情や状 た原因となる認知の き、 況に対する 偏りを気付かせる。 担 認識が運転 安全な運転を行うた 当		ョンを行	させ、自身が危険な			に		
況に対する 偏りを気付かせる。認識が運転 安全な運転を行うた当		い、運転中	運転(行動)に至っ			つ		
認識が運転安全な運転を行うた当当		の感情や状	た原因となる認知の			き、		
		況に対する	偏りを気付かせる。			担		
行動と関連 めの対処法について 者1		認識が運転	安全な運転を行うた			当		
		行動と関連	めの対処法について			者1		

		があること	議論させ、運転中の			人		
		を理解させ	認知の偏りや運転行					
		る。	動を見直して、対処					
			法を継続して実行し、					
			習慣化するよう指導					
			する。					
第	運転技能	課題実	はじめに、運転技	150	グ	受	普通自動二	実施方法は、
2	の診断	施前の助言	能の診断 (1-1) と	分	ル	講	輪車原動機	運転技能の
日	(2)	は次のとお	同じ慣熟走行を実施		_	者3	付自転車	診断 (1-1)
		りである。	し、第1日目の技能診		プ	人		に同じ。場
		(1) でき	断による指導が生か		別	に		内走行終了
		るだけ	されているかを確認			つ		後、場内走
		広い範	する。車の動きが第1			き、		行訓練の記
		囲を見	日目と変わらず乱暴			担		録表(本人
		ること。	であれば、状況に応			当		記録用及び
		(2) 駐停	じた早めの減速が実			者1		指導員記録
		車車両	行されていないこと			人		用)を作成
		の陰、	を指摘する。場合に					する。
		小 交 差	よっては、同じコー					
		道路な	スをもう一度走らせ					
		どから	る。					
		の飛び	そして、運転技能					
		出しに	の診断 (1-1) と同					
		警戒を	じ課題を行い、受講					
		強める	者の運転について1人					
		こと。	ずつ、二輪車の危険					
		(3) 歩行	性は運転行動と密接					
		者、自	な関係があることを					
		転車な	理解させるため、昨					
		どに不	日の運転と比較して、					

	安を感	どこが改善されてい					
	じたと	るかを講評する。					
	きは、	なお、この際運転					
	減速す	技能診断票 (二輪車)					
	ること	に他のメンバーの運					
	を考え	転に対する感想を記					
	て運転	載させるようにすれ					
	するこ	ば、この訓練の効用					
	と。	の度合いを把握でき					
	(4) 二輪	ることになる。					
	車の特						
	性に応						
	じた走						
	行をす						
	ること。						
危険予測	運転席	画像を見て、何が	6 0	全	1人	視聴覚教材	
運転の解	から見えな	問題かを相互に話し	分	員			
説	い部分に対	合わせる。二輪、四					
	する警戒心	輪の運転席からの死					
	を高めるた	角に対する注意、突					
	めの方策を	発的な事態の変化を					
	考えさせ	各人の経験に照らし					
	る。	話させ、安全運転の					
		必要性、対処法を認					
		識させる。					
安全運転	(1) 運転	運転適性診断票及	9 0	グ	受		
実行のた	適性診	び運転技能診断票(二	分	ル	講		
めの指導	断 票 及	輪車)を見せながら		<u> </u>	者3		
・助言	び運転	指導する。		プ	人		
	技能診	自らの長所・短所		別	に		

断票(二	を冷静に見つめ、短]	١.		ĺ	
	所が車の動きとして		個	き、		
	表れないように刻々		別	也、 担		
			的	当		
	と変化する運転時の					
	自らの心の動きを抑		指道	者1		
	制する必要がある。		導	人		
	事故を起こしたく					
	ない気持ちを、この					
	ように、車の動きと					
	して表現する必要が					
	あることを強調し、					
	指導する。					
のと、						
まだ今						
後気を						
付ける						
べき事						
柄を指						
摘する。						
(3) 危険						
予 測 運						
転の大						
切さを						
改めて						
気付か						
せる。						
(4) 社会						
の中の						
自分、						
ルール、						
l l			l	I	l	

	マナー					
	の在り					
	方を理					
	解させ					
	る。					
講習から	何が得	質疑応答により、	6 0	グ	1人	
得られる	られたかを	担当者が受講者の発	分	ル		
ものは何	中心課題と	言を促しながら進め		<u> </u>		
カュ	して、受講	る。進め方の形式に		プ		
	者の心に残	こだわりなく、次の		別		
	るもの、講	ような結論に導く。				
	習に対する	(1) 運転の改善は、				
	印象の大略	一気にできるもの				
	を把握す	ではない。毎日を				
	る。運転時	訓練のつもりで運				
	の意識の在	転する。				
	り方の大切	(2) 受講内容を時々				
	さが理解さ	思い浮かべながら				
	れていれば	運転する。				
	よい。	(3) 状況の変化に				
		は、一呼吸早めの				
		減速で応じる。				
		(4) 先急ぎの気持				
		ち、わがままさ、				
		横着さを刻々と抑				
		えなければ、ブレ				
		ーキの活用ができ				
		ない。				
		受講者の心に残っ				
		たもの、受講後の改				

	善意欲を感想文にま			
	とめさせる。			
	嫌々ながら受講し			
	ているうちに、何か			
	に気付き、受講して			
	良かったという気持			
	ちを抱いている可能			
	性がある。このよう			
	な気持ちを大事にし			
	ながら講習を終了さ			
	せる。			

その3 飲酒取消処分者講習「四輪車用」

	*/	V						
日	講習科目	講習細目	留意事項	時	形	担	資器材の装	備考
				間	式	当	備	
						者		
第	呼気検査	開講	講習の目的とその	7 0	全	1人	アルコール	受講者9人以
1	運転適性	呼気検査	日程について簡単に	分	員		チェッカー	内
日	検査	運転適性検	説明し、直ちに、呼				(アルコー	受講者全員
		查	気検査及び運転適性				ル検知器)	に対し補助
			検査を実施する。運				運転適性検	者1人
			転適性検査では、自				查用紙	1グループ3
			分の力を出し切るよ					人
			う指導する。					補助者は、
								運転適性検
								査を補助す
								る。
	導入	(1) 講習	明るく率直な雰囲	4 0	グ	受		担当者は、
		目的と	気を作り、何を話し	分	ル	講		同じグルー
		方法の	てもよいという気持		1	者3		プを引き続
		説明	ちを抱くよう仕向け		プ	人		き担当する。

	(2) 講師	る。		(3	に		補助者1人
	及び受	受講者の日頃の利		人)	つ		補助者は、
	講者の	用車種、車歴等を話		別	き、		運転適性検
	自己紹	させることで、寡黙			担		査を採点し、
	介	の時間が続かないよ			当		診断書を作
		うにする。			者1		成する。
					人		
性格と運	視聴覚	自らの弱点を冷静	6 0	全	1人	視聴覚教材	補助者1人
転の概説	教材により	に見つめる必要があ	分	員			
	性格特徴が	ることを気付かせる					
	運転の仕方	ような内容のものと					
	に表れる可	する。					
	能性のある	運転適性検査結果					
	ことを示唆	に結び付け、安全な					
	する。	運転の在り方につい					
		て指導する。					
運転技能	(1) 診断	運転時の危険な癖	9 0	グ	受	普通乗用自	補助者は、
の診断	のねら	を指摘し、それが今	分	ル	講	動車運転適	運転適性検
	いと心	後の運転に表れない		1	者3	性検査器	査を補助す
	構え	ようにするための方		プ	人		る。
	(2) = -	法を具体的に考えさ		(3	に		
	スでの	せる。その技術を助		人)	つ		
	技能診	言する。		別	き、		
	断				担		
	(3) チェ				当		
	ックリ				者1		
	ストに				人		
	よる長						
	所、短						
	i	İ	Ì		1 '	ſ	1

	明						
	(4) 運転						
	適性診						
	断結果						
	と照合						
	した運						
	転 特 徴						
	の説明						
運転適性	運転適	自らの運転の仕方	6 0	グ	受	動体視力検	
診断結果	性診断書を	を反省する必要があ	分	ル	講	查器	
による指	受講者に渡	ることを気付かせ、		_	者3	夜間視力検	
導・助言	し、それを	弱点が車の動きに表		プ	人	査器	
	見ながら運	れないようにするた		別	に		
	転時の危険	めにはどうしたらよ		•	つ		
	と直結しや	いかを考えさせる。		個	き、		
	すい弱点を	そして、できるだ		別	担		
	指摘し、事	け処分事由となった		的	当		
	故を起こし	事故、違反と運転適		指	者1		
	やすい要素	性検査結果とを結び		導	人		
	が自らの中	付けて考えるように					
	にあること	示唆する。					
	を、それと	最後に、安全運転					
	なく気付か	実行のためのこつを					
	せるように	助言する。					
	仕向ける。						
アルコー	アルコ	アルコールスクリ	1 0	全	1人	AUDIT検査用	
ルスクリ	ールスクリ	ーニングテスト(AUDI	分	員		紙	
ーニング	ーニングテ	T)を行わせ、自らの					
テスト	スト(AUDI	アルコール依存の程					
	T)を行わせ	度を自覚させる。					

		る。						
	ブリーフ	アルコ	自らのアルコール	9 0	個	受	ワークブッ	
	・インタ	ールスクリ	依存の程度を自覚さ	分	別	講	ク	
	ーベンシ	ーニングテ	せ、飲酒行動の改善		的	者3		
	ョン①	スト(AUDI	を促すよう指導する。		指	人		
		T)の結果に	ワークブックの記		導	に		
		基づく指導	載方法を説明し、問			つ		
		を行う。	題飲酒行動及び飲酒			き、		
		ワーク	運転抑止のための目			担		
		ブックを記	標設定を行わせると			当		
		載させる。	ともに、講習期間中			者1		
			の飲酒量の変化や目			人		
			標の達成状況につい					
			て記録させる。					
第	呼気検査	呼気検査	呼気検査を実施す	1 0	全	1人	呼気検査機	
2			る。	分	員		器	
日	危険予測	運転席	運転席からの死角	6 0	全	1人	視聴覚教材	
	運転の解	から見えな	に対する気配りの必	分	員			
	說	1.7立(人)に分	要性を強調して、突					
			発的な事態の変化を					
		する警戒心						
		する警戒心 を高めるた	発的な事態の変化を					
		する警戒心 を高めるた めの方策を	発的な事態の変化を 想定しながら、慎重					
		する警戒心 を高めるた めの方策を	発的な事態の変化を 想定しながら、慎重 に運転する必要性を					
	コースで	する警戒心 を高めるた めの方策を 考 え さ せ る。	発的な事態の変化を 想定しながら、慎重 に運転する必要性を 理解させる。	6 0	グ	受	普通乗用自	場内走行終
		する警戒心 を高めるた めの方策を 考えさ る。 運転 能の診断と	発的な事態の変化を 想定しながら、慎重 に運転する必要性を 理解させる。 車の動きが第1日 目と変わらず乱暴で			受講	普通乗用自動車	場内走行終 了後、場内
		する警戒心 を高めるた めの方策を 考えさ る。 運転 能の診断と	発的な事態の変化を 想定しながら、慎重 に運転する必要性を 理解させる。 車の動きが第1日		ル			
	の技能診	する警戒心 を高めの方 える。	発的な事態の変化を 想定しながら、慎重 に運転する必要性を 理解させる。 車の動きが第1日 目と変わらず乱暴で		ル	講		了後、場内
	の技能診	する警戒心 をあめの える。 で まる。 で まる。 を まる。 を まる。 を まる。 を まる。 を まる。 を まる。 を まる。 を まる。 を まる。 を まる。 は り に り に り に り に り に り に り に り に り に り	発的な事態の変化を 想定しながら、慎重 に運転する必要性を 理解させる。 車の動きが第1日 目と変わらず乱暴で あれば、状況に応じ	分	ループ	講 者3		了後、場内 走行訓練の

の助言は、	っては、同じ講習路	別	き、	式)、(同乗	
次のとお	をもう1度走らせる。		担	者記録用)	
9 。	受講者の運転につ		当	(第10号様	
(1) でき	いて、1人ずつ第1日		者1	式) 及び (指	
るだけ	目の運転と比較して		人	導員記録用)	
広い範	どこが改善されてい			(第11号様	
囲を見	るかを講評する。			式)を作成	
ること。	なお、この際運転			する。	
(2) 駐停	技能診断票 (四輪車)				
車車両	(第12号様式)に他				
の陰、	のメンバーの運転に				
小 交 差	対する感想を記載さ				
道路な	せるようにすれば、				
どから	この訓練の効用の度				
の飛び	合いを把握できるこ				
出しに	とになる。				
警戒を					
強める					
こと。					
(3) 歩行					
者、自					
転車等					
に不安					
を感じ					
たとき					
は、減					
速する					
ことを					
考えて					
運転す					

	ること。					
安全運転	(1) 運転	運転適性診断票及	6 0	個	受	
実行のた	適性診	び運転技能診断票(四	分	別	講	
めの指導	断票及	輪車) を見せながら		的	者3	
・助言	び運転	指導する。		指	人	
	技能診	自らの長所・短所		導	に	
	断票(四	を冷静に見つめ、短			つ	
	輪 車)	所が車の動きとして			き、	
	から何	表れないように、刻			担	
	が危険	々と変化する運転時			当	
	かを示	の自らの心の動きを			者1	
	唆する。	抑制する必要性を知			人	
	(2) = -	らせる。				
	スでの	事故を起こしたく				
	訓練結	ない気持ちを、この				
	果から	ように、車の動きと				
	改善さ	して表現する必要が				
	れたも	あることを強調し、				
	のと、	指導する。				
	まだ今					
	後気を					
	付ける					
	べき事					
	柄を指					
	摘する。					
	(3) 危険					
	予測運					
	転の大					
	切さを					
	改めて					

	気 付 か						
	せる。						
	(4) 社会						
	の中の						
	自分、						
	ルール、						
	マナー						
	の在り						
	方を理						
	解させ						
	る。						
ブリーフ	ワーク	ブリーフ・インタ	6 0	個	1人	ワークブッ	
・インタ	ブック(日	ーベンション①で設	分	別		ク	
ーベンシ	記) の記載	定した目標の達成状		的			
ョン②	内容の確認	況や飲酒量の変化を		指			
	及び目標の	確認し、個々人ごと		導			
	達成状況の	に飲酒行動や運転行					
	確認	動の改善について指					
		導する。					
ディスカ	飲 酒 運	自らの飲酒運転経	5 0	討	受	ディスカッ	補助者1人
ッション	転をテーマ	験を発表させ、飲酒	分	議	講	ション資料	
指導	としたディ	運転を行ってしまっ		形	者6		
	スカッショ	た理由や今後、飲酒		式	人		
	ンを行い、	運転を行わないため			以		
	飲酒運転の	の方策等について議			下		
	危険性・悪	論させ、飲酒運転に			に		
	質性を理解	対する問題意識を持			つ		
	させる。	たせるよう指導する。			き、		
					担		
					当		

					者1	
					人	
講習から	何が得	質疑応答により、	6 0	全	1人	
得られる	られたかを	担当者が受講者の発	分	員		
ものは何	中心課題と	言を促しながら進め				
カゝ	して、受講	る。進め方の形式に				
	者の心に残	こだわりなく、次の				
	るもの、講	ような結論に導く。				
	習に対する	(1) 運転の改善は、				
	印象の大略	一気にできるもの				
	を把握す	ではない。毎日を				
	る。運転時	訓練のつもりで運				
	の意識の在	転する。				
	り方の大切	(2) 受講内容を時々				
	さが理解さ	思い浮かべながら				
	れていれば	運転する。				
	よい。	(3) 状況の変化に				
		は、一呼吸早めの				
		減速で応じる。				
		(4) 先急ぎの気持				
		ち、わがままさ、				
		横着さを刻々と抑				
		えなければ、ブレ				
		ーキの活用ができ				
		ない。				
		受講者の心に残っ				
		たもの、受講後の改				
		善意欲を感想文にま				
		とめさせる。				
		嫌々ながら受講し				

	ているうちに、何か			
	に気付き、受講して			
	よかったという気持			
	ちを抱いている可能			
	性がある。このよう			
	な気持ちを大事にし			
	ながら講習を終了さ			
	せる。			

- ※ アルコールスクリーニングテスト(AUDIT)とは、WHO(世界保健機関)が開発した、 飲酒問題の程度を調べるテストをいう。
- ※ ブリーフ・インターベンションとは、自らのアルコール依存の程度を自覚させ、飲酒行動の改善を促すとともに、問題飲酒行動及び飲酒運転抑止のための目標設定を行わせるなどの短時間のカウンセリングをいう。

その4 飲酒取消処分者講習「二輪車用」

日	講習科目	講習細目	留意事項	時	形	担	資器材の装	備考
				間	式	当	備	
						者		
第	呼気検査	開講	講習の目的とその	7 0	全	1人	アルコール	受講者9人以
1	運転適性	呼気検査	日程について簡単に	分	員		チェッカー	内
日	検査	運転適性検	説明し、直ちに、呼				(アルコー	受講者全員
		查	気検査及び運転適性				ル検知器)	に対し補助
			検査を実施する。運				運転適性検	者1人
			転適性検査では、自				查用紙	1グループ3
			分の力を出し切るよ					人
			う指導する。					補助者は、
								運転適性検
								査を補助す
								る。
	導入	(1) 講習	明るく率直な雰囲	4 0	グ	受		担当者は、
		目的と	気を作り、何を話し	分	ル	講		同じグルー

	方法の	てもよいという気持		_	者3		プを引き続
	説明	ちを抱くよう仕向け		プ	人		き担当する。
	(2) 講師	る。		(3	に		補助者1人
	及び受	受講者の日頃の利		人)	つ		補助者は、
	講者の	用車種、車歴等を話		別	き、		運転適性検
	自己紹	させることで、寡黙			担		査を採点し、
	介	の時間が続かないよ			当		診断書を作
		うにする。			者1		成する。
					人		
性格と運	視 聴 覚	自らの弱点を冷静	6 0	全	1人	視聴覚教材	
転の概説	教材により	に見つめる必要があ	分	員			
	性格特徴が	ることを気付かせる					
	運転の仕方	ような内容のものと					
	に表れる可	する。					
	能性のある	運転適性検査結果					
	ことを示唆	に結び付け、安全な					
	する。	運転の在り方につい					
		て指導する。					
運転技能	(1) 診断	① 日常点検・取り	9 0	グ	受	普通自動二	車両は、受
の診断	のねら	回し	分	ル	講	輪車	講者1名に1
(1)	いと心	② 慣熟走行		1	者3	原動機付自	台
	構え	③ 目標制動		プ	人	転車	補助者1人
	(2) = -	④ コーナリング		(3	に	運転適性検	課題は、①
	スでの	⑤ スラローム		人)	つ	查器	及び②のほ
	技能診	⑥ 8の字旋回		別	き、		カン3~8の
	断	⑦ 緊急制動			担		うち数課題
	(3) チェ	⑧ 緊急回避			当		を指定して
	ックリ	コースにおいて二			者1		実施する。
	ストの	輪車技能診断課題設			人		担当者の診
	作成	定の基準 (別表第4)					断方法は定

		に基づき設定した課					置式とする。
		題を行わせることに					慣熟走行は
		より、二輪車の危険					補助者の先
		性は運転行動と密接					導で集団走
		な関係があることを					行させ、最
		理解させる。					初の2周は極
		その者の特性を把					低速で走行
		握し、運転技能診断					し状況を見
		票(二輪車)(第13号					ながら順次
		様式)を作成する。					速度を上げ
							る。
運転適性	運転適	技能診断の体験を	6 0	グ	受	動体視力検	
• 技能診	性診断結果	もとに、二輪車の動	分	ル	講	查器	
断結果に	及び技能診	きが運転者や速度に			者3	夜間視力検	
よる指導	断結果に基	よってどう違うか、		プ	人	查器	
・助言	づき、運転	これまでの思い込み		別	に		
	時の危険と	との相違点を話させ、			つ		
	直結しやす	気付かせる。互いの		個	き、		
	い弱点を指	運転の違いを比較さ		別	担		
	摘し、事故	せ、処分事由となっ		的	当		
	を起こしや	た事故、違反と運転		指	者1		
	すい要素が	適性検査結果を結び		導	人		
	自らの中に	付けて考えるよう示					
	もあること	唆し、どうすること					
	をそれとな	が大事かを考えさせ					
	く気付かせ	る。					
	るように仕	第2日目の受講を					
	向ける。	考え、押しつける指					
		導ではなく、希望を					
		 持たせる配慮が必要。					

	アルコー	アルコ	アルコールスクリ	1 0	全	1人	AUDIT検査用	
	ルスクリ	ールスクリ	ーニングテスト(AUDI	分	員		紙	
	ーニング	ーニングテ	T)を行わせ、自らの					
	テスト	スト(AUDI	アルコールの依存度					
		T)を行わせ	を自覚させる。					
		る。						
	ブリーフ	アルコ	自らのアルコール	9 0	個	受	ワークブッ	
	・インタ	ールスクリ	依存の程度を自覚さ	分	別	講	ク	
	ーベンシ	ーニングテ	せ、飲酒行動の改善		的	者3		
	ョン①	スト(AUDI	を促すよう指導する。		指	人		
		T)の結果に	ワークブックの記		導	に		
		基づく指導	載方法を説明し、問			つ		
		を行う。	題飲酒行動及び飲酒			き、		
		ワーク	運転抑止のための目			担		
		ブックを記	標設定を行わせると			当		
		載させる。	ともに、講習期間中			者1		
			の飲酒量の変化や目			人		
			標の達成状況につい					
			て記録させる。					
第	呼気検査	呼気検査	呼気検査を実施す	1 0	全	1人	呼気検査機	
2			る。	分	員		器	
日	危険予測	運転席	画像を見て、何が	6 0	全	1人	視聴覚教材	
	運転の解	から見えな	問題かを相互に話し	分	員			
	説	い部分に対	合わせる。二輪、四					
		する警戒心	輪の運転席からの死					
		を高めるた	角に対する注意、突					
		めの方策を	発的な事態の変化を					
		考えさせ	各人の経験に照らし					
		る。	話させ、安全運転の					
			必要性、対処法を認					

		識させる。					
運転技能	課題実	はじめに、運転技	6 0	グ	受	普通自動二	実施方法は、
の診断	施前の助言	能の診断(1)と同じ慣	分	ル	講	輪車	運転技能の
(2)	は次のとお	熟走行を実施し、第1		J	者3	原動機付自	診断(1)に同
	りである。	日目の技能診断によ		プ	人	転車	じ。場内走
	(1) でき	る指導が生かされて		(3	に		行終了後、
	るだけ	いるかを確認する。		人)	つ		場内走行訓
	広い範	車の動きが昨日と変		別	き、		練の記録表
	囲を見	わらず乱暴であれば、			担		(本人記錄
	ること。	状況に応じた早めの			当		用及び指導
	(2) 駐停	減速が実行されてい			者1		員記録用)
	車車両	ないことを指摘する。			人		を作成する
	の陰、	場合によっては、同					
	小交差	じコースを、もう1度					
	道路な	走らせる。					
	どから	そして、運転技能					
	の飛び	の診断(1)と同じ課題					
	出しに	を行い、受講者の運					
	警戒を	転について1人ずつ、					
	強める	二輪車の危険性は運					
	こと。	転行動と密接な関係					
	(3) 歩行	があることを理解さ					
	者、自	せるため、第1日目の					
	転車な	運転と比較して、ど					
	どに不	こが改善されている					
	安を感	かを講評する。					
	じたと	なお、この際運転					
	きは、	技能診断票 (二輪車)					
	減速す	に他のメンバーの運					
	ること	転に対する感想を記					

1	を考え	載させるようにすれ				
	て運転	ば、この訓練の効用				
	するこ	の度合いを把握でき				
	と。	ることになる。				
	(4) 二輪					
	車の特					
	性に応					
	じた走					
	行をす					
	ること。					
安全運転	(1) 運転	運転適性診断票及	6 0	グ	受	
実行のた	適性診	び運転技能診断票(二	分	ル	講	
めの指導	断 票 及	輪車)を見せながら		_	者3	
・助言	び運転	指導する。		プ	人	
	技能診	自らの長所・短所		別	に	
	断票(二	を冷静に見つめ、短		•	つ	
	輪 車)	所が車の動きとして		個	き、	
	から何	表れないように刻々		別	担	
	が危険	と変化する運転時の		的	当	
	かを示	自らの心の動きを抑		指	者1	
	唆する。	制する必要がある。		導	人	
	(2) = -	事故を起こしたく				
	スでの	ない気持ちを、この				
	訓練結	ように、車の動きと				
	果から	して表現する必要が				
	改善さ	あることを強調し、				
	れたも	指導する。				
	のと、					
	まだ今					
	後気を					

	付ける						
	べき事						
	柄とを						
	指摘す						
	る。						
	(3) 危険						
	予 測 運						
	転の大						
	切さを						
	改めて						
	気付か						
	せる。						
	(4) 社会						
	の中の						
	自分、						
	ルール、						
	マナー						
	の在り						
	方を理						
	解させ						
	る。						
ブリーフ	ワーク	ブリーフ・インタ	6 0	個	受	ワークブッ	
・インタ	ブック(日	ーベンション①で設	分	別	講	ク	
ーベンシ	記) の記載	定した目標の達成状		的	者3		
ョン②	内容の確認	況や飲酒量の変化を		指	人		
	及び目標達	確認し、個々人ごと		導	に		
	成程度の確	に飲酒行動や運転行			つ		
	認	動の改善について指			き、		
		導する。			担		
					当		

					者1		
					人		
ディスカ	飲酒運	自らの飲酒運転経	5 0	討	受	ディスカ	ッ 補助者1人
ッション	転をテーマ	験を発表させ、飲酒	分	議	講	ション資料	斗
指導	としたディ	運転を行ってしまっ		形	者6		
	スカッショ	た理由や今後、飲酒		式	人		
	ンを行い、	運転を行わないため			以		
	飲酒運転の	の方策等について議			下		
	危険性・悪	論させ、飲酒運転に			に		
	質性を理解	対する問題意識を持			つ		
	させる。	たせるよう指導する。			き、		
					担		
					当		
					者1		
					人		
講習から	何が得	質疑応答により、	6 0	全	1人		
得られる	られたかを	担当者が受講者の発	分	員			
ものは何	中心課題と	言を促しながら進め					
カュ	して、受講	る。進め方の形式に					
	者の心に残	こだわりなく、次の					
	るもの、講	ような結論に導く。					
	習に対する	(1) 運転の改善は、					
	印象の大略	一気にできるもの					
	を把握す	ではない。毎日を					
	る。運転時	訓練のつもりです					
	の意識の在	る。					
	り方の大切	(2) 受講内容を時々					
	さが理解さ	思い浮かべながら					
	れていれば	運転する。					
	よい。	(3) 状況の変化に					

1 1	Lagrand of a	Í	, ,	İ
	は、一呼吸早めの			
	減速で応じる。			
	(4) 先急ぎの気持			
	ち、わがままさ、			
	横着さを刻々と抑			
	えなければ、ブレ			
	ーキの活用ができ			
	ない。			
	受講者の心に残っ			
	たもの、受講後の改			
	善意欲を感想文にま			
	とめさせる。			
	嫌々ながら受講し			
	ているうちに、何か			
	に気付き、受講して			
	良かったという気持			
	ちを抱いている可能			
	性がある。このよう			
	な気持ちを大事にし			
	ながら講習を終了さ			
	せる。			

- ※ アルコールスクリーニングテスト(AUDIT)とは、WHO(世界保健機関)が開発した、 飲酒問題の程度を調べるテストをいう。
- ※ ブリーフ・インターベンションとは、自らのアルコール依存の程度を自覚させ、飲 酒行動の改善を促すとともに、問題飲酒行動及び飲酒運転抑止のための目標設定を行 わせるなどの短時間のカウンセリングをいう。

別表第2

講習カリキュラム

その1 四輪車

第1日目

番号	時間	講習内容
1	9:00~10:00	運転適性検査

2	$10:00\sim 11:00$	導入
		講習目的と方法の説明
		講師及び受講者の自己紹介
3	11:00~12:00	性格と運転の概説
		判断の仕方に個人差が
		運転者の気持ちがいつの間にか車の動きに
	12:00~13:00	休憩
4	13:00~14:00	運転適性診断結果による指導・助言
		性格と運転についての話合い
		安全運転実行のためのこつを助言
5	14:00~15:00	ディスカッション指導
		妨害運転等をテーマとしたディスカッション
		運転中の認知の偏りや運転行動の見直しを助言
6	15:00~17:00	運転技能の診断

第2日目

番号	時間	講習内容
7	9:00~10:00	危険予知運転の解説
8	10:00~12:00	コースでの技能診断
	12:00 ~13:00	休憩
9	13 : 00 ∼13 : 30	講習番号8の続き
1 0	13:30~15:00	安全運転実行のための指導・助言
		コース走行訓練の感想
		危険予知が容易にできるには
1 1	15:00~16:00	講習から得られるものは何か
		受講感想文の作成

その2 二輪車

第1日目

番号	時間	講習内容
1	9:00~10:00	運転適性検査
2	10:00~11:00	導入

		講習目的と方法の説明
		講師及び受講者の自己紹介
3	11:00~12:00	運転技能の診断(1-1)
	12:00~13:00	休憩
4	13:00~14:00	性格と運転の概説
		判断の仕方に個人差が
		運転者の気持ちがいつの間にか車の動きに
5	14:00~15:00	運転技能の診断(1―2)
6	15:00~16:00	運転適性・技能診断結果による指導・助言
		性格と運転についての話合い
		安全運転実行のためのこつを助言
7	16:00~17:00	ディスカッション指導
		妨害運転等をテーマとしたディスカッション
		運転中の認知の偏りや運転行動の見直しを助言

第2日目

番号	時間	講習内容
8	9:00~11:30	運転技能の診断(2)
9	11:30~12:00	危険予知運転の解説
	12:00 ~13:00	休憩
1 0	13:00~13:30	講習番号8の続き
1 1	13:30~15:00	安全運転実行のための指導・助言
		コース走行訓練の感想
		危険予知が容易にできるには
1 2	15:00~16:00	講習から得られるものは何か
		受講感想文の作成

その3 飲酒取消処分者講習「四輪車用」

第1日目

番号	時間	講習内容
1	9:00~10:10	呼気検査
		運転適性検査

2	$10:10\sim10:50$	導入
		講習目的と方法の説明
		講師及び受講者の自己紹介
3	10:50~11:50	性格と運転の概説
		判断の仕方に個人差が
		運転者の気持ちがいつの間にか車の動きに
	11:50~12:50	休憩
4	12:50~14:20	運転技能の診断
5	14:20~15:20	運転適性診断結果による指導・助言
		性格と運転についての話合い
		安全運転実行のためのこつを助言
6	15:20~17:00	アルコールスクリーニングテスト
		ブリーフ・インターベンション①
		ワークブックの記載

第2日目

番号	時間	講習内容
7	9:00~10:10	呼気検査
		危険予知運転の解説
8	10:10~11:10	コースでの技能診断
9	11:10~12:10	安全運転実行のための指導・助言
		コース走行訓練の感想
		危険予知が容易にできるには
	12:10~13:10	休憩
1 0	13:10~14:10	ブリーフ・インターベンション②
		ワークブック記載内容の確認
		目標達成状況の確認
1 1	14:10~16:00	ディスカッション
		講習から得られるものは何か
		受講感想文の作成

その4 飲酒取消処分者講習「二輪車用」

第1日目

番号	時間	講習内容
1	9:00~10:10	呼気検査
		運転適性検査
2	10:10~10:50	導入
		講習目的と方法の説明
		講師及び受講者の自己紹介
3	10:50~11:50	性格と運転の概説
		判断の仕方に個人差が
		運転者の気持ちがいつの間にか車の動きに
	11:50~12:50	休憩
4	12:50~14:20	運転技能の診断(1)
5	14:20~15:20	運転適性・技能診断結果による指導・助言
		性格と運転についての話合い
		安全運転実行のためのこつを助言
6	15:20~17:00	アルコールスクリーニングテスト
		ブリーフ・インターベンション①
		ワークブックの記載

第2日目

番号	時間	講習内容
7	9:00~10:10	呼気検査
		危険予知運転の解説
8	10:10~11:10	運転技能の診断(2)
9	11:10~12:10	安全運転実行のための指導・助言
		コース走行訓練の感想
		危険予知が容易にできるには
	12:10~13:10	休憩
1 0	13:10~14:10	ブリーフ・インターベンション②
		ワークブック記載内容の確認
		目標達成状況の確認

1 1	$14:10\sim 16:00$	ディスカッション
		講習から得られるものは何か
		受講感想文の作成

別表第3 四輪車の講習路設定の基準と診断の着眼点

実施場所			講習路形状	診断の着眼点				
コース		(1)	外周、外回り		速度の加減速の状況			
(所要時間	10~15分)	(2)	外周、内回り		交差道路への対応			
(走行距離	$2\sim$ 3km)	(3)	クランク、S字		ハンドルさばき			
					減速調整			
		(4)	見通しの悪い交差点	直	飛び出しに対する警戒状況			
		線	、右折、左折					

別表第4

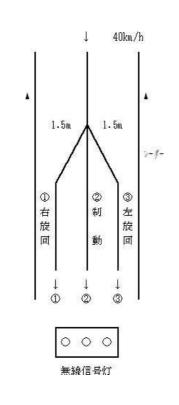
二輪車技能診断課題設定の基準

	課題	課題設定の基準	課題設定の基準				
1	慣熟走行		① 最初は低速で外	○ 受講者の技			
			周を走行する。	能レベルと問			
			② 2回目は外周3周	題走行を見極			
			を走行後、S、ク	める。			
			ランク等の屈曲コ				
			ースに入り、順次				
			速度を上げる。				

		③ 受講者が走った
		との感を持つまで
		走行する。
	↓ 40km/h	
	制動開始△ △パイロン	ただし原付は、30 るブレーキと
	レーダー	km/hとする。 実際の違いを
	9.5m	② 前輪、後輪、前 自覚させる。
	停止 目標 13.2m	後輪同時ブレーキ 〇 バランス、
	地点. 22m	の順で行う。 ブレーキ操作、
		③ 目標地点に停止 乗車姿勢が容
2 目標制動	Δ Δ	①で智畑が場合です、〇易理解ルモビ
	33m	再度繰り返して行を認識させる。
		う。
		④ 後輪ブレーキは1
		3.2m以下ではロッ
		クするので、1回
		限りとする。
		⑤ ギヤは4速以上と
		する(エンジンブ
		レーキがかからな
		いため。)。
		⑥ 走行順序は、技
		能の高い受講者か
		らとする。

	0.6m		
ング		回させる。	進路保持の難
	△ (R10m) △	② 指示速度は、10k	しさを認識さ
		m/hから2~3km/	せる。
		hずつ上げる。	〇 曲率と自分
	0.6m	③ 半径10m円が設置	の限界速度を
	△ R7m △	できない場合は、	自覚させる。
3 コーナリ		①半径宿や速度で旋	○ カーブでの
		④ 受講者が所定の	
		速度に達したなら、	
		警笛を鳴らさせ、	
		他の受講者が半周	
		する時間を計測し、	
		速度に換算の上記	
		録する。	
		⑤ 指導員が危険と	
		判断するまでは、	
		受講者に聴きなが	
		ら速度を上げられ	
		るまで上げさせる。	
	パイロン 4 m		
4	$\langle \triangle \rangle$	は、4mと8mの2種	短いコースで
	パイロン Δ Δ 8 m	類とし、4mから始	は、車を倒さ
	/ 🔏	める。	ずハンドルで
	\bigwedge^{Δ} \bigwedge Δ	② 走行速度は、低	曲がることを
		速度から順次速度	体験させる。
4 スラロー	1	①をピげるよの問帰	○ おずみを理
	Δ	示する。	度超過、操作
		③ 他の受講者に通	遅れでパイロ
		過時間を計測させ	ンをクリアー

		る。	できないこと
			を認識させる。
	(▲) パイロン		
口	⊗ 4 m	では単独走行させ、	コース取りの
	(▲) パイロン	順次旋回半径を短	難しさを認識
		くさせる。	させる。
	パイロン	② パイロン間隔8m	
		では2台同時に走	
	8 m	行させ、4周した	
5 8の字旋	(▲) パイロン	①後離脱モン関陽雯	○ 低速度での
		講者を進入させる。	
	↓ 40km/h		
	制動開始△ △パイロン	hで行う。ただし、	を認識させる。
	レーダー	原付は30km/h~4	○ 2人乗りブレ
	8.3m	0km/hとする。	ーキの特性を
	停止 13.2m 地点	② 後輪、前輪、前	理解させる。
	パイロン▲ ▲ 22m	後輪同時ブレーキ	
c 取為期	を移動する「	の順で行う。	○判制の四周
6 緊急制動	0 0 0	① 40km/h~50km/ ③ 制動開始地点通	○制動の限界
	無線信号灯	過時に制動合図を	
		出す信号灯を準備	
		する。	
		④ ブレーキ操作力	
		を表示する測定器	
		により指導すると	
		効果的である。	
		⑤ 1人乗り制動が終	
		った時点で2人乗	
		り制動を行う。	



緊急回避

守らせる。

- ② まず、全員に合 図と同時に緊急制 動を行わせ、他の 受講者に停止距離 を測定させて記録 させる。
- ③ 3種類の合図を定
- ①め指示速度を必ば 認知、判断 合図を出させ、停 止、右旋回、左旋 回を行わせ、その 距離を測定、記録 させる。

最初は、「あて 感」で方向を間違 えても続けさせる が、途中に全員を 集め実際の交通場 面で間違えること が何を意味するか を問い、注意を促 した後再開する。

④ 車両の進行状況 を明確にするため、 残跡装置を車両に 装備すると指導に 説得力が出る。

を要求される 操作は単純操 作に比べて時 間がかかるこ とを体験し安 全運転の本質 を理解させる。

運転適性指導員選任届出書

年 月 日

山梨県公安委員会 殿

 指定講習機関名

 實理
 者

次の者を運転適性指導員として選任したので届け出ます。

木	籍								
住	所								
氏	名		e-anne-inne-inne-inne-in			年	月	日生(歳
	教習指導員	当		通		年	月	Ħ	
	資格者記	正 普	自	_		年	月	Ħ	
現	交 付	大	: 自	=		年	月	Н	
,,,,		道	転適性記			年	月	Н	
有	講習指導」	遺	反	者		年	月	Н	
資		停	止処分) 者		年	月	В	
.555	資格認定!	自自	静	者		年	月	日	
格		通	転習	熟		年	月	Н	
	運転適性検査	運転適性検査・指導者資格者証交付日				年	月	Ħ	
	新任運転適性指導員課程修了証交付日					年	月	日	

参考事項

備考 現有資格を証する書面、履歴書、運転免許証及び住民票の写し並びに運転記録証明書を添付する こと。

VCT.	d: -	32	LIL.	145	234	1-1	6.77	1-	1-1	111	-11-
理	里//	儿也	17+:	1日	學	Ħ	解	11:	曲	ш	書

年 月 日

山梨県公安委員会 殿

指 定 講 習 機 関 名管 理 者

次の者を運転適性指導員から解任したので届け出ます。

本	EE CONTRACTOR OF THE CONTRACTO				
住 月	fī				
氏 名	<u> </u>	年	月	日生(歳)
解任した事品					
備表	2 5				

取消処分者講習受講申出者名簿

実施場所 運転免許課 ・ 指定講習機関

実 施 日 月 日~ 日(· 曜日)

								実 施	Ħ	月		∃~		日(•	曜	口)
番	V *** \	氏		名	Δ.	~	連 絡	先	等	予	約受付	ナ・回答		受付者	備		考
号	受講区分	生 年	三月	日	住	所	自宅電話番号	勤務先及び 電話番号	*勤務先の	受付	Ħ	回答	Ħ	回答者	変	更	等
1	四輪 (MT·AT) 二輪	年	月	日生						月	日	月	日				
2	四輪 (MT·AT) 二輪	年	月	日生						月	H	月	日				
3	四輪 (MT·AT) 二輪	年	月	日生						月	Ħ	月	月				
4	四輪 (MT·AT) 二輪	年	月	日生						月	Ħ	月	日				
5	四輪 (MT·AT) 二輪	年	月	日生						月	Ħ	月	月				
6	四輪 (MT·AT) 二輪	年	月	日生					·	月	Ħ	月	月				

取消処分者講習受講予定者通知書

年 月 目

指定講習機関名殿

川梨県公安委員会 印

次の者に対して、道路交通法第108条の2第1項第2号に規定する講習を実施するよう通知する。

番号	氏 名 生年月日	住	所	性別	連絡先電話番号	受講区分	講習指定 年月日

第5号様式

整理番号	第			号	通知句	F月日			年	月	Ħ
			違	反	歴	等	通	知	票		
受	氏		名								
	生 年	月	日			4	F	月	日生	(歳)
講	欠 格	期	間			年	月	日力		月	日まで
者	累 積	点	数		前歴		Ħ		累積点数		年間 点
	発生生						行為	等の	種別		点 数
	年	月	F								
違	年	月	E	ſ							
反	年	月	Ħ	î							
歷	年	月	E	Ĭ .							
.	年	月	B								
处	年	月	Ħ								
歴	年	月	E								
7.11.2	年	月	Ħ	ì							
	年	月	В								
連絡事項等								2222302			
√l.								1			

取消処分者講習終了証明書交付簿

実施日 月 日~ 日(・ 曜日)

												A 108 H		, ı	14		н			MIE II /	
終了	了証明	書 番	号	氏		名	(年齢)	住			所		受講	区分		備			考		
交	付 年	月	Ħ	生	年 月	Ħ		G	筆 /	文 等 経	歷)		X 1117			VIII					
第			号				(歳)						四	輪	旧免番		月	Ħ		取得	
	年	月	日		年	月	日生	(形	消	年、欠格		まで)	_	輪	新免番		Я	10		以付	
第			号				(歳)						pq	輪	旧免番		月	日		取得	
	年	月	Ħ		年	月	日生	(販	消	年、欠格		まで)	Ξ	輪	新免番		Я	Ħ		4X197	
第			号				(歳)						四	輸	旧免番		н	H		取得	
	年	月	日		年	月	日生	(販	消	年、欠格		まで)		輸	新免番	月 :	Я	Л	П	В	水付
第			号				/ 4 <u>E</u> \						四	輸	旧免番					u-ZH	
	年	月	Ħ		年	月	(歳) 日生	(取	消	年、欠格		まで)	Ξ	輸	新免番		月	目		取得	
第			号				(ھٹ)						Щ	輸	旧免番		н	н		Hi-30	
	年	月	日		年	月	(歳) 日生	(取	消	年、欠格		まで)	=	輪	新免番		月	日		取得	
第			号				/ 그냥/						рq	輪	旧免番			н		TF- 4H	
	年	月	月		年	月	(歳) 日生	(販	消	年、欠格	6	まで)	=	輸	新免番		月	口		取得	

取消処分者講習実施簿

講習実施日

第1日目 年 月 日() 第2日日 年 月 日()

番号	l	午			住	所	性別	講習区		指導	
	年	y	月	日生							
	午	v	月	日生							
	年	9	月	日生							-
	华		月	日生.							
	年	ę	月	日生							3 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20
. 23050.34050	年	2	月	日生				hama ama	incontracoura	01.0107.0107.0107	annio anno a
信	莆 考										

備考1 「番号」欄は、実施日ごとの番号とすること。

2 「講習の区分」欄は、四輪又は二輪の別を記載すること。

感 想 文

年 月 日

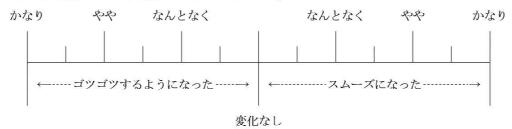
氏 名

I	
l	
l	
I .	
	
l	
	

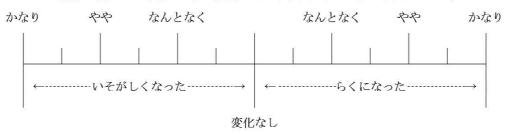
場内走行訓練の記録表(本人記録用)

<u>番</u> 号		— 年	月	<u>月</u>
運転者氏名	<u>′</u>	前・午後	時	<u>分</u>

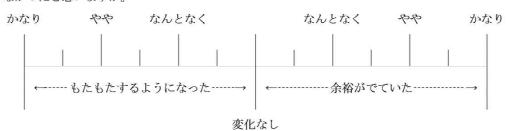
1 1回目と比べ2回目の運転では、車の動きが変わった感じがするでしょうか。それは、どのようなことですか。下記に示すような感じはしませんでしたか。



2 一つ一つの操作が変わったと思いますか。変わったとすればどのようになりましたか。



3 1回目の運転と比べた場合、2回目の運転では余裕があったと思いますか。それとも逆に、うまくいかなかったと思いますか。

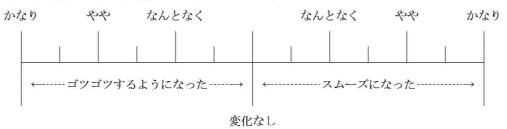


4 その他、あなたが感じたことを自由に書いてください。どんなことでもかまいません。

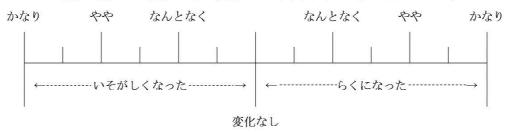
場内走行訓練の記録表(同乗者記録用)

<u>診 断 者</u>	訓練日	年	月	<u> </u>
運転者氏名		「前・午後	時	<u>分</u>

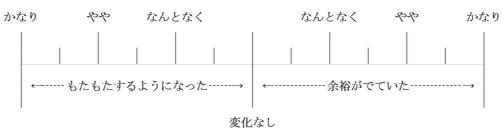
1 1回目と比べ2回目の運転では、車の動きが変わった感じがするでしょうか。それは、どのようなことですか。下記に示すような感じはしませんでしたか。



2 一つ一つの操作が変わったと思いますか。変わったとすればどのようになりましたか。



3 1回目の運転と比べた場合、2回目の運転では余裕があったと思いますか。それとも逆に、うまくい かなかったと思いますか。

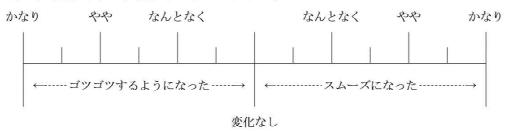


4 その他、あなたが感じたことを自由に書いてください。どんなことでもかまいません。

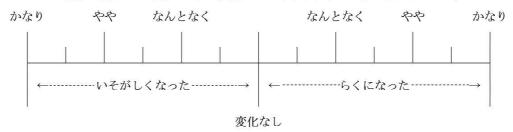
場内走行訓練の記録表(指導員記録用)

番 号	 年	月	月
運転者氏名	午前・午後	時	分

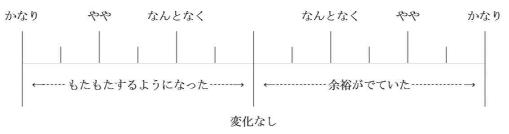
1 1回目と比べ2回目の運転では、車の動きが変わった感じがするでしょうか。それは、どのようなことですか。下記に示すような感じはしませんでしたか。



2 一つ一つの操作が変わったと思いますか。変わったとすればどのようになりましたか。



3 1回目の運転と比べた場合、2回目の運転では余裕があったと思いますか。それとも逆に、うまくいかなかったと思いますか。



- 4 その他、講習指導員等が感じたことを自由に記述する。
- 5 運転中における本人の言葉、運転後における本人の感想をできるだけ忠実に記録する。

運転技能診断票(四輪車)

診関	断者		運	転者	患 男・女	年	月	日実施
	年	月	口生	年	月 口	免許取得		
	時及び 直後の印象	ŧ						
注意の仕方	状況確認		中途半途	一点集中、片寄り、む 端、遅れ、見落とし、 ごなし、甘い、やや甘	わき見			評価値
運転操作	ブレーキ アクセル		遅れ、急むら、急 足のせ、	き、とられ、遅れ、急 急、やや急、不要、予 急、やや急、エンジン 急、早切り、不要 あらい、操作を急ぐ、	·告制動、ハン ′ブレーキ			評価値
走行特徵	速停信標交誘交弱 差者 点導判保	·····································	速位無無病の世界の世界の世界の世界の世界の世界の世界の世界の世界の世界の世界の世界の世界の	やや遅れ、忘れ 徐行せず、遅すぎ、 けぎ、不完全停止、不 圣視、見込み発進 軽視 り、左大回り、まごつ オーバー、じぐざぐ、 誰、追越し、進路の、 で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	停止 く、追越し、 走行位置、通 、すれ違い 排除	他車妨害		評価値
性格的特徴・運転態度	攻撃性 自己婦子 気分易変・ 神経質 抑うつ性 粘着性 意思解消	性 性 	排他、技が調緊お軽が表表が表表が表表が表表が表表が表表が表表が表表が表表がある。	せっかち、あせる、 巨否、無視、わがまま うをつける、あえて無 ぱい、気分に左右され けぎ、迷い、集中でき でする、なめとと反応に り、勘違い ぶつぶついう、はな	理をする る、すぐ興奮 ず、気づかい 気 ぶり、もたつ	\ ><	ない	評価値
走 行の 中印 象	1							総合評価値

運転技能診断票(二輪車)

診内	折者		運	転者		歳 男・女	年	月	日実施
	年	月	日生	年	月	日	免許取得		
	前点検・ 回し時のF	印象				時及び 直後の印象			
注意の仕方			じっく	一点集中、片寄り りと見ない、遅れ どなし、甘い、や	、見落		見		一個值
運転操作	ハンドル ブレーキ アクセル クラッチ その他		遅れ、 むら、 急、早	き、バンク(急・不 急、やや急、不要 急、やや急、空ふ 切り、不要 ひにあらっぱい、	、バラ かし	ンス(前・後	()		評価値
走行特徴	交差点		速すぎ、 位置出、 無視、 右小回 中央線 車間距	忘れ 遅すぎ、速度調 すぎ、不完全停止 軽視、見込み発進 り、左大回り、追 オーバー、じぐざ 雅、追越し、進路 い(急・不適当)、	、不停 越 じ 、 走 変 更、	让 行位置不定 すれ違い			評価値
性格的特徴・運転態度	着実な傾 攻撃性一 自己顕情 感情高揚 神経 の性	向 性 性 	むきに 排他、 がっこ 調子 ほとお	あせる、思い付なる、思い付なる、もたつき気に視、突っかける。 があるでける。気をつける。気をつける。気軽に行うがい、気軽に行くが、ない、気をはい、気となどする、おおざっに	味、反 、 わか て無理 かい弱気	応の遅れ ぎまま、強気 見をする		を守らな	評価値
その他中の印象	新 緊急制 緊急回 み の他	リング [·] 動 避			o ana adaman				総合評価値

- 第1号様式
- 第2号様式
- 第3号様式
- 第4号様式
- 第5号様式
- 第6号様式
- 第7号様式
- 第8号様式
- 第9号様式
- 第10号様式
- 第11号様式
- 第12号様式
- 第13号様式